

## 第1回公立大学法人福井県立大学評価委員会 概要

平成19年1月17日(水)

14:10~15:45

県庁7階 特別会議室

### (出席者)

吉村委員長、熊澤委員、平泉委員、前川委員、槇村委員

### 【概要】

- 1 委員長の選任
- 2 議事

- (1) 公立大学法人福井県立大学評価委員会について
- (2) 公立大学法人福井県立大学中期目標(案)について

◎委員の互選により吉村委員を委員長に選任し、吉村委員長が熊澤委員を委員長の職務代理者に指名した。

◎公立大学法人福井県立大学評価委員会および公立大学法人福井県立大学中期目標(案)について、事務局から説明があり、意見交換が行われた。

### 【主な発言要旨】

#### 1 公立大学法人福井県立大学評価委員会について

(委員) 役員の給与については評価委員会で適切かどうか申し上げることになるが、職員の給与の取扱いはどうなっているのか。

(事務局) 評価委員会の対象事項にはなっていない。地方公務員の給与や民間企業の給与を加味して法人が定めることになっている。

(委員) 法人だから地方公務員の給与がダイレクトに適用されるのではなく、それを勘案しながら法人が決めるということか。

(事務局) そうである。

(委員) 6年間の中期目標となっているが、6年間に当然見直しもかかってくると思う。中期計画との関係はどうなるのか。

(事務局) 急激に事態が変わって変更しなければならないことにならない限り、6年間目標はそのままということになる。計画についても同様。変更が必要になった場合は、評価委員会で意見を伺うことになる。

(委員) 中期目標は基本理念的なことを押さえるということになるのか。

(事務局) そうである。

(委員) 一般的な独立行政法人については、さほど変化はないかもしれない。しかし、大学法人は、研究教育機関であり、6年間に様々な国際的なニーズ、地域的なニーズも出てくる。やると言ったものやらないのは問題があるかもしれないが、新しくやらなければならないとして法人が計画を上げてくれば、県としては別途考えるのではないか。

(事務局) そうである。

## 2 公立大学法人福井県立大学中期目標(案)について

(委員) 法律で記載が決められているのはどの部分か。

(事務局) 教育や研究といった、ローマ数字の大きな見出しのレベルは書かないといけませんが、内容については制約がない。

(委員) 県庁では、中期目標を作るに当たり、かなり議論したのか。

(事務局) 大学の教員とは、かなり議論している。

(委員) 資料 P.5 の基本的な考え方ところで、「人間性豊かな」とあり、ここに入っているとは思いますが、命を大切にするという観点で、「人間愛」という方向性を出してはどうか。

(事務局) 資料 P.12 にある定款第1条の目的の記載を引用している。どこか他に入れるところがあれば入れる方法はあるかと思う。

(委員) 国立大学では、学校教育法の大学の目的をそのまま写しているようなものもある。これはこれで考えて書いたのだと思う。

(委員) 基本的な考え方は、大学の基本理念からきていると思うが、その流れが分かると理解しやすいのではないか。基本的な考え方は、中期目標の基本的な考え方ということによいか。

(事務局) そうである。

(委員) 今やらなくてはならないことが書き込まれているとは思いますが、中期計画で記載するのもかもしれないが、例えば、中期目標の一般的な項目の中に福井らしいキーワードを入れる方法もある。

(委員) 1つ1つの目標は、素晴らしいと思う。知事が示した中期目標に対して、大学が特徴のある中期計画を作成するとよいサイクルとなる。中期目標に優等生的に反応して、総花的に出してくるとマイナスのサイクルになる。

県側で考えて、「福井県では、〇〇。」という戦略的な目標を1つどこかに入れるかである。国立大学では国大協などで異論が出てできないが、福井県立大学ならできる。県民が誇りを持てるようなものは何か1つ入っているか。

(事務局) 誇りが持てるというのではないが、「特色ある研究の推進」という目標がある。この表現自体は、全国どこでも当てはまると思うが、福井県立大学では海洋生物資源学科という日本海側では1つしかない分野を持っている。この分野の研究は特色あるものと考えている。

(委員) 3つの基本理念、すなわち、個性で特色があるのと情報発信がポイントだと思う。すっきりとまとまっているとは思いますが、Ⅱの研究やⅢの地域貢献の目標については、もう少し強く打ち出してもいいのではないか。

また、情報発信というのは、「Ⅳ 業務運営の改善および効率化に関する目標」の1項目となっているが、開かれた大学ということから、情報発信は大きな項目としてもよいのではないか。

それと、評価がこれから大事になってくると思う。資料P.8の「Ⅵ 自己点検・評価～」はもう少し特色が出せるのではないか。

(委員) 海洋生物資源のように特色があって自信のあるところは、自己評価を行わずに、いきなり外部評価をするという方法もある。身内では気がつかない、なるほどという意見が聴ける。

目標で定めるのではなく、大学が計画を作成する際にサジェスションする方法もある。

(事務局) 大学が作成する中期計画でどのような特色を出せるかということはある。

情報発信について、福井県立大学が福井県の広告塔であってよい。大きな項目で出してもよいと思う。

(委員) 国際化というと、留学生とか研究者の交流ということになる。しかし、研究者が海外に行くのは、自分でお金を取ってくればよいこと。例えば、職員をJICAに国際派遣するというのは情報発信にならないか。留学生がどれくらい入ったというのも情報発信だが、どちらの情報発信がパンチが効くか。

(事務局) 目標では、そこまで細かく書けるかというはあるが、趣旨は盛り込んでいきたい。

(委員) 予算の積み上げの仕方も工夫できる。国立大学の人件費は運営費交付金で職員数に応じた金額が交付される。実際に少ない人数でやっても人件費予算総額は減らさないとすると、残額を職員に分配できるので、職員のやる気が出てくる。県立大学は1つしかないのだから、工夫もしやすいのではないか。

(委員) 県立大学の受験生は多いのか。

(事務局) 志願倍率で5～6倍である。県内と県外の割合は5割ずつである。

全入時代を迎える中で危機意識は持っている。

- (委員) 将来、法人の評価をすることになると思うが、評価の指標をどのように設定するのは難しい。質的に誰が見てもやっているのが分かる評価指標にしないとイケない。
- (委員) 目標を立てるときに、計画の連動性も考慮する必要がある。6年間で、並列的にやっていくのか、優先順位を付けてやっていくのかも。計画の立て方は大学に任せてあるのか。
- (事務局) 中期計画のほかに、年度計画を作成する。中期計画の事項を6年間の前半部分に持ってくるのか、後半部分に持ってくるのか、全体のボリュームを考えながら、年度計画を作成するものと考えている。  
特に重点的にやっていくものや、インパクトのある言葉の打ち出しはしていきたい。評価についても、通常のやり方でない評価自体がインパクトがあるということであれば、そのような項目も入ってくると思う。計画段階では、重点的なものは前倒しして予算も投入していくように考えていかないといけない。
- (委員) 情報発信は、2年前から戦略的に考えないと学生募集には結びつかない。私学では、教員が高校訪問の営業活動を行っているが、直接高校側の生の感触がつかめてよい。今の高校生は、インターネットで大学の情報収集をしている。
- (委員) 中期目標に入れるかどうかは別として、同窓会組織を強化してはどうか。コロンビア大学では、日本にいる卒業生の情報をつかんでいて、卒業生のネットワークを作っている。日本の国公立大学は同窓会を大事にしない傾向があり、国立大学は、やっと取り組み始めたところ。
- (委員) 就職の支援とあるが、細かいレベルでは、卒業生の就職の支援という施策も考えられる。  
戦略的にどこに向かっているのかが分かる目標があった方が、評価もしやすい。項目が漏れ落ちるとイケないが、別個に戦略的な打ち出しをしてはどうかと思う。
- (委員) 県立大学は、国と違ってユニークなものを作れる。今日の意見を入れて練り直してみるとよいと思う。